

第3WG 評価コメント

評価者のコメント(評価シートに記載されたコメント)

事業番号3-17 (独) 理化学研究所

(次世代スーパーコンピューティング技術の推進)

10ペタスパコンを開発することが自己目的化している。巨額の税金を投入して世界最高水準のスパコンを創る以上、大事なのはスパコンを生かして、どのような政策効果を出していくのかを、明確にできなければ、国費投入は無理である。

必要最低限の予算へ見直しをする。来年度はこの開発計画を一度凍結し、計画の根本見直しをする。

一旦総合科学技術会議なりに戻して、何を実現するために何が必要かを見直すべき。ハードの戦いではなく、ソフトの戦いをするべき。

総合科学技術会議への差し戻し、再検討。科学技術の必要性、重要性は理解できるが、国民の理解には至っていない。世界一の頂のみを目指す時代ではない。

開発体制そのものの見直しが必要。システム部分等をカット。

ベクトル、スカラーの選択も、十分な総括ができていない。この段階で十分な説得力のない「世界一」という目的だけで、多額の投資をすべきではない。世界一番乗りと財政状況とのバランスを考えれば、これまでの経緯を踏まえ、基礎研究部分のみを残す。

技術は蓄積されているので、ここで計画を見直し、当初の目的に沿うようにする。抜本の変更が必要。

これまでの開発費の有効利用を考えての見直し。当初目的を満足しているのか、なぜNECが撤退したのか等の理由等を調査。立ち止まって見直しをする。世界一を目指す必要はない。

スパコンの国家戦略を再構築すべきである。従来の検討者以外の新しい研究者を入れて、新しい議論を公開しながら行うべき。現状はスパコンの巨艦巨砲主義に陥っていないか。競争のルールが変わってきている可能性はないか。世界の中での位置づけを検討すべき。おそらく日本の先端技術についての国の形を変えるかどうかを検討することになるだろう。

戦略の見直しをじっくりやってみようか。

トヨタもF1から撤退した。苦渋かつ前向きな判断を。研究者が夢を追うだけでなく、一般人が「なるほど、巨額の税金投入の意義がある」と得心できる説明ができなければOKできない。日米共同なども模索すべき。

WGの評価結果

(独)理化学研究所 (次世代スーパーコンピューティング技術の推進)

来年度の予算計上の見送りに限りなく近い縮減

(廃止1名、予算計上見送り6名、
予算要求の縮減5名(a半額3名、その他2名))

とりまとめコメント

次世代スーパーコンピューティング技術の推進については、廃止1名、予算計上見送り6名、予算要求の縮減5名となり、縮減の内容は半額以上であった。当WGとしては、計画の凍結、ということで、来年度の予算は、見送りに限りなく近い縮減との結論とする。